● 指導計画（第３・４学年の実践例）

（１）学　年　　第３・４学年　４名

（２）本時のねらい　我が国に伝わる文化や伝統のよさを知り，それを大切にしていこうとする気持ちを育てる。【C-（１６）】

（３）教材名　　「お茶の心」（『ゆたかな心ーわたしたちの道徳　６年』（光文書院）※一部改訂

（４）準備物　　写真（昨年度の「お茶会」風景）　資料画像　ワークシート　茶道具（筒茶碗等）

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	１「お茶会」に対する思いを述べ合う。	「お茶会」と聞いて，どんなことを思いうかべますか。 ・おいしいお茶とお菓子が食べられる。 ・いろんなきまり（作法）があるけど，楽しい。 ・もっと自由に食べたり，飲んだりしたいな。	○児童の「お茶会」での経験をもとに，「お茶（茶道）」に対する率直な思いを引き出し，終末時における気持ちとの比較につなげる。
展開	２　資料を聞いて話し合う。	「自分にはふつり合いなところにきちゃったな」と思った「わたし」はどんな気持ちでしょうか。 ・むずかしくてわたしには，よくわからないな。 ・へんなことをして人にわらわれたらどうしよう。 「お茶」の作法や道具に，いろいろな思いがこめられていることを知ったわたしは，どんなことを考えたでしょう。 ・相手のことを思って，お碗をまわすんだな。 ・季節によってお碗の形もちがうんだ。 ・お茶だけでなく，道具や部屋のかざりまで，「客」をもてなす気持ちがこめられているんだな。 「わたし」が温かな気持ちになったのは，どうしてだろう。 ・「亭主」が「客」のことを心から考えてもてなしてくれたのがわかり，うれしかったから。 ・お茶の温かさと一緒に心の温かさを感じたから。	○資料を提示しながら，「お茶」に対する「わたし」の気持ちの変化を考えさせる。 ○資料に紹介されている作法や道具について，児童がわかりやすいように補足をする。 ○「筒茶碗」の保温性について，実際に体験をする。（講師の先生のお手前による） ○亭主からの心からの「もてなし」を受けて，「わたし」が受けた感動に共感させる。
	３　ゲストの方の話を聞く。	いつもお茶会でご指導をしてくださる泉寿恵子先生のお話を聞きましょう。 ○泉先生が「茶道」を通じて大切にしていること ○泉先生が「茶道」を続けてきた思いと今後の展望 ○「もてなしの心」がこもる「お茶会」での具体的な事例の紹介（所作，掛け軸や和菓子の準備等）	○講師の先生の「お茶」に対する思いを聴くとともに，具体物や映像を用いて，「お茶」のもてなしの例を紹介してもらい，そこにこめられた心について知る。
終末	４　感想を述べ合う。	この時間を通して，どんなことを考えましたか。 ・「お茶」では，いろいろなものに相手を大切に思う気持ちがこめられていることがわかった。 ・「お茶」の作法には深い意味がある。	○互いの思いを聞き合い，導入時の思いとの比較から変容を味わわせて終わる。

毎年体験している「お茶会」における思いを想起させる

資料に出てくる「筒茶碗」について実際に保温性を体感してみる

＜道徳の授業後における学校行事＞

・「お茶会」体験（毎年２月に，講師の先生を招いて開催）

・道徳の時間の学習を想起して臨ませ，「お茶」の作法や道具の一つ一つに意味があることを意識させる。
・以前と比べて，「お茶会」に対する思いがどのようにちがってきたか，事後に振り返りをさせる。